



あなたのそばに人権相談員がいます!!

発行人 牧坂秀敏・小宮 豊

# 人権プラザ便り [ 結び ]

(公財)東京都人権啓発センター 〒111-0023 台東区橋場 1-1-6 TEL.03-5808-9682 (直通)

## 自らの尊厳を守り、安心して暮らすためにも、 知っておこう！介護保険のしくみと利用の仕方

### 高齢聴覚障がい者の 介護を考える

アンケート調査結果から…

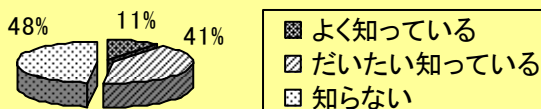


#### ●介護保険利用の申請先を「知らない」人は約7割

前号でお知らせしましたが、高齢聴覚障がい者への「介護保険利用のための調査」を実施。これは、聴覚障がい当事者団体と手話サークルなどの協力により実現したものです。調査結果からみえてきた特徴的なことを挙げてみます。

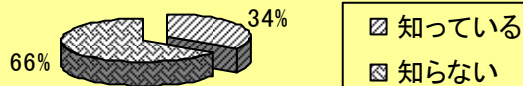
「介護保険のしくみ・中身を知っていますか」については、「知らない」と答えた人が5割近い。

介護保険のしくみを知っていますか



ところが、「介護保険を利用する時、どこに申請するか、知っていますか」では、「知らない」と答えた人は7割近くになります。

介護保険を利用する時、どこに申請するか知っていますか



上記の「だいたい知っている」と答えた人(41%)がとても不確かな認識でしかないことを表しています。また、介護保険のしくみや申請先も「知っている」と答えた人は、約3割でした。

介護保険制度の認知度について、第一生命経済研究所が2010年1月に行った調査では、「詳しい内容を知っている」が3.6%、「ある程度内容を知って

いる」が26.2%、両者を合わせても3割に満たないという全国的な調査結果もあります。

つまり、聴覚障がい者だけでなく、多くの国民の間でも依然として介護保険制度の理解がすすんでいないというのが現状です。

だれでも、いざ介護が必要になったとき、必要な介護サービスが利用できるように「介護保険とは、どういうしくみになっているのか」を知っておくことが「安心」につながります。

#### ●介護保険を知って利用するには、 コミュニケーション支援が必要不可欠

介護保険にしる、利用できる介護サービスにしる、その基本は「聞こえる」高齢者を前提にしています。したがって、高齢の聴覚障がい者にとっては、その障がいによって不利益を被らないためにも、制度のしくみと利用の仕方などを正確に理解しておくことがとても大切です。そして、介護保険利用にあたっての手続きや要介護認定のための訪問調査などにおいては、手話通訳などコミュニケーション支援を要求していくことが必要不可欠です。

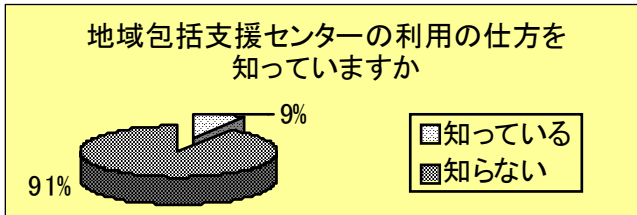
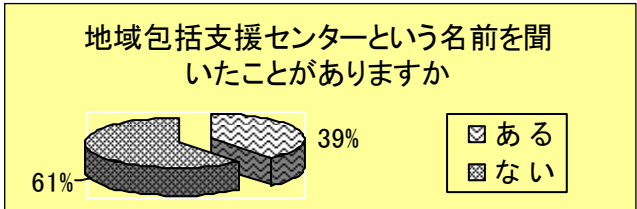
これは声を大にして訴えたいことです。

#### ●地域包括支援センターの利用の仕方を 「知らない」人は9割

「地域包括支援センター」は、2006年に制度化され、高齢者の生活を支える総合相談窓口と位置付けられました。

ところが、「名前を聞いたことがない」が61%。「利用の仕方を知らない」が91%とその認知度は非常に低いのが現状です。自治体が行った調査でも、地域包括支援センターについて「知っている」は10%に満たず、同様の結果です。

地域包括支援センターはどんな相談に乗ってく

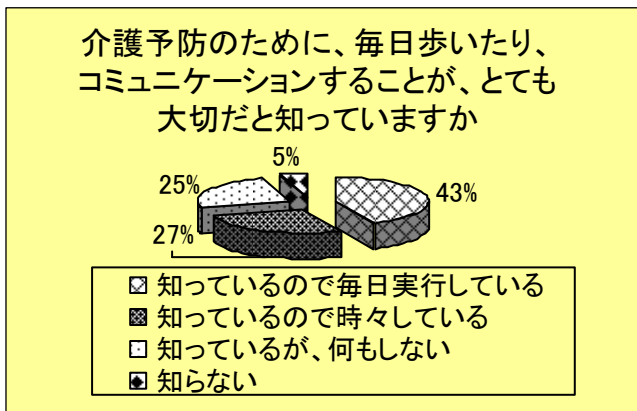


れるのか、あるいは介護予防や認知症のことでどんな取り組みをやっているのかを知らなければ、足が向かないのは当たり前です。

●介護予防への関心高く、7割が取り組む

とはいえ、まったく関心が低いわけではありません。「介護予防のために、毎日歩いたり、コミュニケーションすることがとても大切だと知っていますか」については、「知っているので毎日実行している」と答えた人が43%、「知っているので時々している」と答えた人が27%。

すなわち、実際には介護予防に取り組んでいる人たちは合わせると70%に上ります。



●相談相手は子どもが5割以上

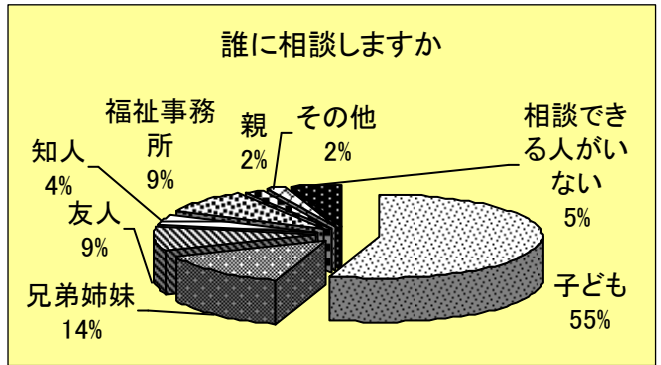
「歩行できなくなった時、または買い物や調理、掃除が出来なくなった時、誰に相談しますか」については、「子ども」と答えた人がいちばん多く55%、その次は「兄弟姉妹」14%、「友人」「福祉事務所(区役所)」9%と続きます。ただし、「相談できる人がいない」という人が5%います。

「困った時、相談できる人は身近にいますか」については「いる」が95%で、その内訳は「子ども」がやはり55%でした。

ということは、相談を受けた「子ども」はどのように

対応するのでしょうか。介護保険を利用するにはどうすればいいのか、どこに相談すればいいのか、これらのことをご存じでしょうか。

つまり、ご家族も一緒になって介護保険などの理解を深めることが求められています。



●聴覚障がい者として切実な不安の声

「これからの生活で不安に思うこと」について、自由に書いてもらいましたが、聴覚障がい者としての不安の声が数多く寄せられました。

いくつか紹介すると、「主人が亡くなったので、いきなり、自分ひとりになってしまい、自分は文章とか書けなくて内容が分からなくなったり、ずれてしまったり、これからが心配」「一人で話し相手がいないから仲間作りがしたい。介護が必要になった時、手話ができるヘルパーに来てほしい。24時間の緊急対応を希望する。たとえば、夜中、腹痛で病院へ手話通訳と行きたい。救急車を呼んでほしい」「筆談、日本語の読み書きができない。手話で会話できる人に助けてもらいたい」「今は一人暮らしで頑張っているが、体が悪くなった時が不安。特に耳が聞こえないので困る」「ひきこもりの息子(聴覚障がい)がおり、こちらのほうが心配。昼夜逆転、会話もほとんどなく、精神科にも連れていけない」など、課題山積です。

**調査をきっかけに、新たな取り組みはじまる!!**

このアンケート調査を受けて、まず「聴覚障がい当事者が介護保険のしくみを知ろう」と有志で勉強会がスタートしました。それは、聴覚障がい者の新たな居場所づくりにつながっていきます。いざ介護が必要になった時、困らないように情報を伝え助けるネットワークを確実に広げていきます。

だれもが安心して地域でいきいきと暮らせるように、共同した取り組みが動き出しました。